

執着を捨て去る難しさ

有名大学を卒業した若者がいました。大学を卒業して五年間に四回の転職、今は五回目の職を探しているということです。

就職の面談に来られて、話を聞くと、二言目にはその大学の名前が出て来ますし、同期生で出世している友人の話が出て来ます。

そして、今まで就職してきた会社の上司が、いかに自分に対する目がないのかを延々と話されます。

自身の頭の良さと、大学の名前に執着している悲しい姿に見えました。その殻を壊すべくある体験をしてもらい、今は、立派に市役所の課長をしています。

金持ちは金に執着し、貧乏人は貧乏に執着します。病気にとらわれている病人、馬や自転車、パチンコなどのギャンブルに凝って家庭を潰す人、酒に溺れて身体をこわす人、異性への執着を断てずに人生をあやまる人…。

執着に負けて失意の底にうめき声をあげている人がどれほど多いことでしょう。

マッチ一本握りしめていても、手を合わせることはできません。合掌という祈りの姿の中に、何も持たない裸の心、穏やかな日々の心があるのではないのでしょうか。